

《抗議声明》

「与党とその候補者を支持しない」との通達に断乎、抗議します
正統の「生長の家」を継承する「谷口雅春先生を学ぶ会」

去る6月8日、「最高首脳者会」は参議院選挙に於いて、「与党を支持せず」と決定し、それを全国の信徒に通知しました。その内容は以下の通りです。

- (1) …安倍晋三首相の政治姿勢に対して、明確な「反対」の意思を表明するため、今夏の参院選では「与党とその候補者を支持しない」ことを本部方針として定め、その方針と支持しない理由を…教団のあらゆる媒体を使って信徒に周知せしめる。
- (2) 上記の目的で、菅野完著『日本会議の研究』（扶桑社新書）を国内全教区の七者に配布すると共に、一般会員や信徒にも購入を勧める。その目的で一般財団法人「世界聖典普及協会」にも同書の取扱いを依頼し、生長の家講習会や教化部を通じて頒布する。
- (3) 国内の各教区等では参院選の投票日まで、(1)～(2)の情報を使い、講習会後の講演会、勉強会、研修会、練成会などの場で、本方針への会員・幹部の理解を図る。

この通達の趣旨は、この度の参議院選挙では、“自民党に投票するな！「赤旗共産党、民進党」野合の候補者に投票せよ！”ということです。現に、谷口雅宣総裁は、自らのブログ記事において読者とのやりとりの中で次のように述べています。

あなたのお住まいがどこかわかりませんが、棄権は好ましくないので、いわゆる“野党統一候補”に投票することをお薦めします。少なくとも、私はそうします。

投稿：谷口/2016年6月10日(金)14時05分

総裁自らここまで言えば、信徒としてそれを無視することは到底できません。当然、教団あげて、「通達」を資料にし、『日本会議の研究』をテキストにして、その周知徹底をはかることとなりましょう。単なる噂や伝聞をもとに「日本会議」を貶めるために書いたような『日本会議の研究』を恰も『聖典』であるかの如く「世界聖典普及協会」で取り扱うということも異例ならば、それを教区七者に対して無料配布するというのも異例です。

もはや、生長の家は完全な「左翼政治結社」になったも同然です。所謂「生政連」解散後、一貫して「政治運動には関与しない」と述べて来たことは、いったい何だったのでしょうか。結局、谷口雅宣総裁は、政治運動というよりかは、当時の愛国運動そのものが嫌いだったのであり、「サヨク」のそれであれば積極的に関わりたいというのが、その本音であったということがこれで明らかになりました。

長年、「天皇国・日本」の護持、そして「占領憲法」改正を党是に掲げる自民党を支持してきた信徒にとってみれば、まさか、生長の家が「赤旗・共産党」を支持するようになるろうとは夢にも思わなかった。それこそ、驚天動地のことだったのでしょう。

これにより、尊師・谷口雅春先生によって築かれた「愛国・生長の家」の社会的信用は、一気に地に墜ちてしまいました。谷口雅宣総裁は、「日の丸」に取って代わって「赤旗」を掲げる「生長の家」に変えようとしているのです。それに中心帰一して「ハイ」をすることが、果たして、生長の家本来の御教えと言えるのでしょうか。『栄える生活365章』にかくあります。

《“ノー”と言うべき時には勇敢に“ノー”と言い得る者が勇者であり、己れに克ち、他からの誘惑に克つことのできる者である。イエスは無抵抗の徳を説いたが、“ノー”と言うべき時には常に敢然として“ノー”と知っているのである。彼はサタン（悪魔）の誘惑に対して敢然として“ノー”といったし、又エルサレムの宮の境内で、坊さんと結託して犠牲にする動物を売る商人に対して“ノー”といった。私たちは、義しき事、善き事、好ましき事、美しき事、人のためになる事、愛すべき事に対してのみ“イエス”というべきであるのである。（中略）自己の判断と決意とが明確を欠くならば、自己の歩む人生行路も明確を欠くことになり、他の人が勝手にきめた方向に、自分の生活を押し流されることになり、人間の尊い自主性を失ってしまうことになるのである。「天地一切のものと和解せよ」とは決して、自己の明確な判断と決意とを不明瞭にして他に妥協することではないのである》（49～50頁）

谷口雅宣総裁の言う方針に「ハイ」と賛同することは、サタンの所業に他なりません。今こそ、国を愛する信徒一人ひとりが、そして尊師・谷口雅春先生の教えを信ずる一人ひとりが「ノー」と言って立ち上がる時であります。皆さんの神意に合った判断と決意とを心から念願する次第です。